

1 学校教育目標

学ぶよろこび ・ きたえるよろこび ・ ふれ合うよろこび をもつ子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で笑顔あふれる学校 ・子供も教職員も生き生きと輝いている学校 ・保護者・地域から信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学力・体力を身に付け、工夫しながら努力し続ける子ども ・目標をもち、最後までやり遂げる子ども ・互いの違いや人権を尊重し、協働して、社会に貢献する子ども
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスを厳守し、子供の人権を守り、子供とともに努力し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ・子供のよさを認め、励まし、高める教師 ・指導力の向上を目指し、主体的・意欲的に研修に励む教師 ・課題意識、危機意識をもち、組織的に課題に対応できる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[学校の現状]

○学級数12学級、児童数300名、創立57年を迎える。学区は、環七北側に位置し、2つの町、3つの町会が存在する。保護者・地域の方々は、学校教育に理解があり、協力的である。

明るく素直で、子供らしい児童が多い。学習中は、落ち着いて学習に取り組む児童が多いが、課題もある。教職員は、若手教員が多く、ベテランが若手をよく指導し、一つ一つの授業や行事に、熱心に指導に取り組んでいる。足立スタンダード虎の巻を軸にした授業を展開し、思考力・判断力・表現力を高める授業を目指し、取り組んでいる

[前年度の成果と課題]

○全校朝会の集合など、チャイムに頼らず、時計を見て主体的に行動するようになった。

○高学年児童が低学年児童に優しく接している光景が多く見られた。

○体験を通して社会生活に生きる知識や知恵を身に付けるよう、学校行事を充実していく。

●教員一人一人の危機意識を高め、危険予測力を高め、情報共有し、チームとしての解決力を高める。

●ICTの活用：授業中の対話の中で、考えを出し合ったり比べ合ったりする場面の活用に努める。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R6	R7	R8	R9	R10

1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな人間性の育成（豊かな心）	◎	◎	◎	◎	◎
3	基礎体力の向上と健康な体づくり（健やかな体）	◎	◎	◎	◎	◎

5 令和8年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●			
○基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ○読解力・活用力・応用力の育成		○区学力調査目標値通過率 国語85%以上 算数85%以上	自己評価の際に記入						
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業の充実 授業力向上	全学年 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・「足立スタンダード虎の巻」の活用 ・校内研究、小中連携での研究授業の実施、区内外の研究発表への参加 ・日常の授業観察と指導・助言（管理職・教科指導専門員） ・SP表に基づく授業改善 ・週の指導計画の充実 主活動2つ以上明記 	日常の授業観察 たしかめテスト 1. 2. 3	教員の自己評価 95%以上実施 児童の意識調査から「授業が分かる・楽しい」80%以上 目標値を80%として通過率 （たしかめテスト1, 2, 3） 低学年 85% 中学年 80% 高学年 75% 以上の人数	自己評価の際に記入		

2 継	ICTの活用	全児童 全教科 思考力向上	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、専科 ・児童がより理解しやすいようにICTを活用した授業を行う 	週の予定表 教員の自己評価	全教員が週3回以上ICTを活用した授業を行う	自己評価の際に記入
3 新	図書活動の充実～自力解決能力の向上～	全児童 全教科 全時間	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館資料を活用して、年間3～5時間以上探究学習を行う ・教員・ボランティアによる読み聞かせ 	教員の自己評価 読書カード 児童自己評価	探究学習が楽しい80%以上	
4 継	AIドリルの活用	全児童 国語 算数 基礎技能 中心	授業・パワーアップタイム 週2回	<ul style="list-style-type: none"> ・担任 ・授業：学習内容の定着を図るため、数問取り組む。 ・パワーアップタイム：個別に学習内容の定着を図る必要がある内容について取り組む。 	教員の自己評価 たしかめテスト 1. 2. 3	目標値を80%として通過率 低学年 85% 中学年 80% 高学年 75% 以上の人数	
5 継	パワーアップタイム	全児童 国語 算数	1校時前の10分間	<ul style="list-style-type: none"> ・担任・学力向上部 ・学調査分析に基づき、各学年の苦手領域に対し、抽出問題に取り組み、その時間のうちに解説することを繰り返す。 ・東京ベーシックドリルやAIドリル・学力へのアプローチプリントなどを使い、学習内容の復習・確認を行い、定着を図る。 	たしかめテスト 1. 2. 3	目標値を80%として通過率 低学年 85% 中学年 80% 高学年 75% 以上の人数	

6 継	夏期補充	対象児童 各学年8 名程度 国語 算数	夏休み 期間中 の10コ マ	・担任、専科、学習ボランティア ・学力調査で分析した、 学習内容の補充をプリン ト・タブレット等を活用 して理解を図る。	たしかめテ スト 1	目標値を70%と して通過率 低学年 85% 中学年 80% 高学年 75% 以上の人数	自己評価の際に記入
7 新	区調査振り 返り学習	全児童 対象 教科	パワー アップ タイム ・56月 ・11～ 1月 ・23月	5. 6月に区調査の分析 に基づいての苦手分野の 克服学習（パワーアップ タイム） 56月の抽出問題を、下 学年が取り組む。（パワー アップタイム） 2月に再調査を行い、分 析に基づき、克服学習を 行う。	2月区調査	目標値を80%と して通過率 低学年 85% 中学年 75% 高学年 70% 以上の人数	
8 新	校内研究	全児童 対象教科	通年	学習環境・規律の統一 ユニバーサルデザインに 基づいた授業を基盤とし て学習環境を整え、児童 の学習意欲を高める。	月毎の確認シ ート 研究 授業の成果と 課題の考察	教員の自己評 価 80%	

重点的な取組事項－2		豊かな人間性の育成（豊かな心）					
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題	達成度
自己肯定感を高める 思いやりのある心を育む 規律ある行動をする		学校は楽しい95% 自分を肯定的に捉えられる90%		自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み							
項目	達成基準	具体的な方策		実施結果	コメント・課題	達成度	

自己肯定感の向上	学校は楽しい95% 自分を肯定的に捉えられる 90%	・ふれあい月間の取組年3回 ・道徳授業の充実 (・課外スポーツクラブ)	
思いやりの心を育てる	仲間との関わりが良好 90%	・きょうだい班集会 ・きょうだい班活動 ・児童集会	
読書に親しみ 豊かな心を育む	進んで読書をする85%	・朝読書週1回 ・読書教室(1・2年) ・読書月間の設定	
規律ある行動をする	「ひがくり学び方スタンダード」達成80% ・挨拶・返事・身支度 ・持ち物・宿題・チャイム・連絡確認	・学級・学年・全校指導での指導の徹底、 ・生活習慣強化週間(長期休み明け2週間)の実施	

重点的な取組事項－3		基礎体力の向上と健康な体づくり(健やかな体)			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
体力向上 日常的に運動に親しむ児童の育成		全種目の70%で区平均と同等か上回る 児童の自己評価 項目 90%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

<p>体力向上</p>	<p>50%の種目数で区平均と同等か上回る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長縄跳び、持久走の取組、 体育朝会の計画的な実施と実施方法の工夫・改善 ・調査結果を基にして強化領域の決定（投力・柔軟性） 	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>自己評価の際に記入</p> </div>
<p>運動に親しむ 運動の日常化</p>	<p>外遊びを進んでする 運動することが好き 各項目自己評価90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育指導技術向上のための 実技研修 ・外遊びの奨励 ・オリンピックタイムタイム の実施 	

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します。